

矢祭子ども司書を受講する君たちへ

君たちが学校の授業だけでなく、すすんで「子ども司書」の講座を受けようと決心したことに、まず拍手を送ります。

学校での勉強だけでも、しっかりと取り組もうとすると、大変ですよ。そのような中で、学課の勉強とはかなり違う、図書館の仕事のことや様々な本の分類のことなどを学ぶというのは、大きな負担になるかもしれません。

しかし、人の脳のはたらきというものは、決められたことだけをやっているよりは、それと並行して、性質の違うことに取り組んだほうが、活発になることが、学問的に明らかにされています。もし君たちが「子ども司書」の講座を受けなければ知ることのなかったこと——例えば、本や学問には実に多くの分野があることとか、図書館を利用する人が選ぶ本は人によって実に多様で、バラエティに富んでいるとか、よく読まれる人気の作家以外にも沢山の作家がいて、それぞれに興味深い作品を書いているとか、自分も読みたくなる興味深い写真集や画集などが沢山あるのを知るなど、これまで想像もしていなかったことに目を開かせられるに違いありません。

このように視野が広くなると、その影響で学校での授業内容を理解する力が、一段と向上するのは確実です。

今年は、受講生が男子二人、女子三人だそうですね。参加者が少なくて心細く思う必要はありません。むしろ逆の発想をしましょう。仲間が多いと楽しいけれど、少なければかえって気持ちを集中して学ぶことができる、と。

そして、この講座に参加したことで、一冊でも二冊でも好きな本、すばらしい本に出会えたら、それは君の心の財産になるでしょう。

さあ、これから始まる「子ども司書講座」を、楽しんでください。

平成三十年五月二十六日

ノンフィクション作家

柳田 邦男

やなぎだ

くにお